

若者ことばにみる特徴的表現の一考察

A Study of Characteristic Expressions Detectable in the Spoken Japanese of Youth

方 韻

香港中文大学

要旨

現代日本語における若者ことばは、特徴的言語表現として、これまで広く研究されてきている。本稿で注目したいのは、意味や表現において、普通の日本語からずれている若者ことばである。

例えば、「いと」という古語は、ごく特別な場合を除き、現代の普通の日本語には用いられていないが、若者たちは、「いと高い」「いと大変」のように、日常の会話に使っている。

また「太陽系」における「系」は、普通の日本語では名詞につく接尾辞として用いられているが、若者ことばでは「一緒にご飯食べる系？」というように、文や句に付くものとして用いられている。接辞のほかに、「ザビる」のような形式的一段動詞の類に入る若者ことばは、多く「ザビっている」に示される五段動詞のように活用変化する。

このように、日本語の若者ことばは、意味や表現において、普通の日本語にあわないところがある。本稿はそれについて検討し、またそれをどのように説明できるのかについて吟味する。

キーワード：

若者ことば、表現、特徴、用法

若者ことばにみる特徴的表現の一考察

方 韻
香港中文大学

1. はじめに

現代日本語における若者ことばは、一種特別な言語現象として、これまで広く研究されてきている。例えば、小矢野哲夫（2007）は、日本語教育の立場から若者ことばの教育問題を取り上げている。井上逸兵（2006）は、社会文化の視点からネット社会で使用されている若者ことばの特徴や生成などに言及している。さらに、山口仲美（2007）は、若者ことばの生成、特色、使用事情などについて全般的にまとめている。これらの研究は、多かれ少なかれ若者ことばの言語機能や表現形式に触れているが、細部においてはまだ言及し足りないところがある。そこで、本稿では、主に若者ことばの意味表現に焦点をあて、その特徴的部分を中心に分析の重点を置く。

2. 若者ことばに用いられる古語

古語や古典語は、文字通り古い言葉のことであるが、堅苦しい文章や熟語の場合を除き、基本的に現代日本語とは縁遠いもののように思われる。しかし、その古語は、次のように若者たちがごく普通に使用することがある。

(1) A：今日の夕食すごいきれいだね。

B：いとをかしだね。（山口仲美：2007、p. 92）

例にある「いと」と「をかし」はいずれも古語であり、それぞれ「非常に」と「美しい」などを意味する。この2語は、例えば「霜いと白う置ける朝、遣り水より煙の立つこそをかしけれ」（「徒然草・十九段」、『例解古語辞典』p. 948）のような古典に現れれば、何も不思議なことではないが、(1)のように若者たちが日常的表現として使用している。これは、若者ことばの特徴的表現の一例であるといえる。

(1)のように、古語がダブって使用されることがあるが、現代語とのセットで使用されることがよくみられる。以下のようなようである。

(2) いと高い。まじ就活は交通費で金銭的にガタガタになります。今週だけで6000円くらい、ぶっ飛びました。明日も片道940円。（blog. goo.）

(3) あのレポート、いと大変だったよ。（山口仲美：2007、p. 90）

上記のように、若者たちは会話やブログなどに古語を使用しているが、使い方や意味においては、古語本来のそれとずれてしまうことがある。例えば、「をかし」というのは、清少納言の時代では、情趣ある光景に触れ、その感動を表すものとして使用されていたようであるが、現在の若者たちは、(1)のように単なる料理のきれいさを賞賛するときでも気軽に使っている。また、(2)と(3)にある「いと高い」、「いと大変(だった)」のように現代語に続ける用法は、「いと」本来の用法ではないし、若者たちによってはその使用範囲が拡大されている。

むろん、若者ことばにおいて、古語の使用はまったく制限がないというわけではない。若者たちは、それを一定のルールにそって流行らせているように見える。例えば、「いと赤い」、「いと明るい」、「いと広い」のような言い方は、「Yahoo! JAPAN」のウェブ検索サイトで調べてみたところ、まだ1件も見つからない。どちらかというところ、「寒い」や「悔しい」など感情や気持ちなどを表す形容詞は、「いと」と共用されやすい。

そもそも古語の日常的使用とは無縁のようにみえる若者たちが、なぜそれを使っているのだろうか。山口仲美(2007)によれば、それは、古語を現代語の中にまぜて使っていて楽しんでいる。つまり、面白がって使うのだということにあると思われる。

3. 若者ことばに用いられる接辞

日本語は接辞が比較的発達している言語だと思われる。「不可能」の「不」で代表される接頭辞や、「ながら族」の「族」で代表される接尾辞は、いずれもその典型的例にあたる。そして、その接辞は、生産性が高い。例えば、「族」を例にすると、「社用族」、「窓際族」、「妄想族」、「暴走族」、「親指族」、「悪魔族」など多数作り出されている。そういう接辞は、むろん若者ことばにおいても頻用されている。ただ、従来の既成の接辞に比べ、若者ことばの場合、在来接辞の拡大使用だったり、新しい接辞の創出だったりすることが特徴的である。

- (4) 一緒にご飯食べる系? (『みんなで国語』 p.15)
- (5) 大学でばっくくそ可愛い子見た。(logsoku.com/thread/hibari)
- (6) euro2012のドイツが鬼強い。(logsoku.com/thread/hayabusa)

(4)における「系」は普通、接尾辞として使われる際に、一定の規則がある。それは、「太陽系」、「理科系」などのように、名詞に付くということである。しかし、

若者ことばになると、それを発展させて、(4)のように文単位や句単位で使用されることもよくみられる。言わば、接辞「系」の拡大使用である。その「系」のほかに、「おうち帰りたい病」の「病」、「イチゴは先に食べる派」の「派」、「みんな来る説」の「説」などの接尾辞の用法からも、そういう特徴が読み取れる。

(5)における「くそ」は、ここで接頭辞として用いられている。元来なら、典型的接頭辞は接尾辞と同じように、非自立語に属するため、単独では用いられない。上記の「系」、「族」などの接尾辞はそうであるが、「お手洗い」の「お」、「非常識」の「非」、「全世界」の「全」などの接頭辞も、その代表例に数えられる。これらに比べれば、(5)にある「くそ」は、明らかに用法が異なる。「くそ」は、「大便」などを意味する名詞と、「くそ、今に見てろよ」のように感動詞として使用される一方、「くそばばあ」のように接頭辞として用いられる場合もある。いわゆる多品詞語である。ただ、接頭辞の「くそ」におけるもともとの意味合いは、若者ことばでは希薄化しており、(5)のようにもっぱら強調語として用いられることが多い。

(6)にある「鬼」も接頭辞である。『広辞林』（三省堂、1983）によれば、接頭辞の「鬼」は、「勇猛・無造作・大型などの意を表す」（p.269）ものであるが、「鬼將軍」、「鬼嫁」、「鬼教官」などのように名詞に前接するのが普通である。これに対して、若者たちは、それを(6)のように形容詞などに使うこともある。しかも、「鬼強い」や「鬼かわいい」というように、従来の「鬼」の意味合いと色合いが弱化しており、もっぱら程度を強める語として使われることが多い。

「くそ」や「鬼」のほかに、「ゲロうまい」の「ゲロ」などの若者ことばにも、同じ傾向がみられる。

方韻・小出雅生（2010）によれば、若者たちが接辞を愛用するのは、(5)と(6)のように、面白い語感や捉え方を出せるという点があげられる。また、若者たちは、(4)のように、接辞をつけることによって、発話を和らげようとする。これについては、山口仲美（2007）の検討がある。それによると、「若者は、傷つきやすい。接辞をつけて表現を婉曲にし、それによって個人攻撃されるのを未然に防ぐ。また、相手への個人攻撃になるのを控える」（p.138）という心理的防御が、結局、若者たちによる接辞の使用につながっているのである。

4. 若者ことばに用いられるKY語

現代日本語において、ローマ字表記による語は、仮名や漢字からなる表記語よりは少数であるが、「TOYOTA」や「SHARP」のように社名として活用されるのがよく見受

けられる。しかし、若者たちが口にするKY語は、一般にいうローマ字表記語とはまったく違うものである。

KY語とは、『KY語辞典』（白夜書房、2008）やウィキペディアなどによると、「空気読めない」（Kuki Yomenai）に代表される、文章や句などを略して各単語の先頭のローマ字・数字を組み合わせた略語群を指す。以下に例を引きながら、若者ことばのKY語を分析しよう。

(7) A：特に誰が好きですか？

B：まあDDですね。（『みんなで国語』p.102）

(8) MY（マジやる気）でがんばります。（www.excite）

(9) A：愛ってさATMだと思わない？

B：そうだね、顔はカワイイのに何気に毒舌だったりするしね。

（『渋谷語』p.71）

(7)にあるKY語「DD」とは、「だれでも大好き」（Daredemo Daisuki）の略である。(8)にある「MY」は、「マジやる気」（Maji Yaruki）の略語である。一方、(9)にある「ATM」は、銀行などに設置される現金自動預入払出機のことではなく、「あいつたまにむかつく」（Aitsu Tamani Mukatsuku）を省略したものである。これらのローマ字表現は、一般の日本語にはなく、部外者や年長者は聞いても分からないであろう。この意味で、KY語は、若者ことばにみられる特徴的表現の一つであるといえる。

KY語は、形はどうであれ、一種省略語であるので、普通の語と同じようにその意味特徴に応じた文法的機能が果たせる。例えば、(7)には述語成分として使われており、(8)には連用修飾成分として使われている。また、KY語は、語彙的には、「オレのGBがねえ！盗んだべ？」（前掲『KY語辞典』、p.70）のように名詞になることもあれば、「妙にYMなバイトっていない？」（同『KY語辞典』p.49）、「てか最近MSしてないし」（同『KY語辞典』p.44）¹など形容動詞、動詞になることもある。

では、なぜ若者たちは、会話にKY語を使っているのだろうか。その一つは、例えば「空気読めない」とストレートに伝えてしまうときついで、語気を和らげるため

1 例にあるKY語はそれぞれGB=ゲームボーイ（携帯ゲーム機）、YM=やる気まんまん、MS=ムダ毛処理、という意味になる（いずれも『KY語辞典』（白夜書房、2008）を参照）。

であると考えられる。また、省略することによって、仲間内には通じるが、第三者には分からない言葉になって、仲間意識の共有ができるということが、理由の一つとして考えられる。最後に、KY語を使用すると、狭い範囲の人間にしか通じないので、外部から見てかっこよく振舞うことができるという理由もあげられる（山口仲美（2007）参照）。

5. 若者ことばに用いられる動詞

若者ことばには、もちろん大量の動詞も用いられている。その中で、普通の動詞が使用されることもあれば、特別な動詞類が用いられることもある。

- (10) 今日の髪型、いつもよりエクステ増量して盛ってみたんだけど、イケてる？
（『渋谷語』 p. 60）

(10) にある「イケる」はもちろんのこと、若者ことばとされる「盛る」も一般動詞として用いられている。これは、ここで「上にどんどん重ねる」（『渋谷語』 p. 60）のような意味合いを表すが、「山の形にたかく積む」（『広辞林』、1983 : p. 1950）という「盛る」のもともとの意味として通じるし、形でも意味でも普通の動詞的表現とは大きな違いがみられない。しかし、次の諸例は、それと違うタイプのものである。

- (11) ヤバい！ダイエット中なのに、曾根っちゃった。（『渋谷語』 p. 33）
(12) あれ、今日化粧ってないじゃん？（『みんなで国語』 p. 16）』）

(11) の「曾根る」は、辞書にはない動詞である。これは、大食い女王とされるギャル曾根の名前をとって作られた語で、文字通り大食いすることを意味する。(12) の「化粧る」も辞書には載っていない動詞で、「化粧する」の意味である。

上掲例のように、若者たちは、既成の語や表現を使って動詞化の接尾辞「る」をつけたり、それを短縮したりして新しい動詞を作る傾向がある。特に、(11) と (12) のように、「体言＋る」の形による造語は、若者ことばの世界では次々になされている。これについてさらに例をあげると、「マくる」（マクドナルドに行く）、「コくる」（告白する）、「たこる」（タコ焼きを食べる）、「オふる」（オフ=off、電源を切る）、「アマゾる」（大手通販サイト Amazon.com で買い物をする）、「みの

る」(タレントのみのもんたばりにバリバリ働く)などいくらでもみつかる。このような新奇な動詞は、普通の日本語にはみられない、若者ことばならではの動詞創出上の一特徴であるといえよう。

動詞の作り方だけではなく、動詞の用法においても、若者ことばの特徴的一面も見逃せない。次の例で説明する。

(13) なんか感動してガシってきた。(『みんなで国語』p.8)』)

(14) 今度の校長先生、ちょっとザビってるよ。(『时尚日语』p.168)

(15) A: 茶べったあと、オレンちでも茶べる?

B: イヤ!それはゼツタイ無いから!! (『渋谷語』p.36)

普通の日本語では、動詞の活用は、一定のルールにそってなされる。例えば「走る」はラ行五段活用の動詞タイプに入るため、「て」形に前接すれば「走って」のように活用変化しなければならない。このような規則は、むしろ若者ことばにも適用する。(13)の「ガシる」(目頭が熱くなって涙が出そうになる)を「ガシって」と活用変化させるのはまさにその好例である。ほかに、例えば「かもす」(個性を出す)を「かもしている」と、「タクる」(タクシーに乗る)を「タクりましょう」と、若者たちも動詞活用の規則に従って表現している。

(13)にひきかえ、若者ことばにおける一部の動詞は、そういうルールから外れた活用形をとる。(14)の「ザビる」と(15)の「茶べる」はその例にあたる。

「ザビる」(はげている)は形式上、一段活用の動詞タイプに入るようにみえるが、(14)のように「ザビって」と五段活用している。一方の「茶べる」(お茶しながらしゃべる)も、見かけでは一段動詞の類に属するが、(15)には「茶べった(あと)」と五段動詞のような変化形をとっている。

普通の日本語には、例えば「帰る」や「切る」などの語は、一段動詞のような形をとっていながら実際五段活用しているものもあるが、それは一般に例外のケースだと思われている。これと対照的に、若者ことばでは、(14)と(15)に示されているが、一段動詞のようにみえる語はほとんどの場合、五段活用している。これが、むしろ若者ことばの普通の言い方になると考えられる。こういう新しい動詞用法の出現について、南雅彦が次のように触れている²。

2 これは、www.gengosf.com/dir_x/modules/wordpress/index.php?cat...というホームページより引用したものである。なお、アクセスは、2012年9月24日にしたのである。

「いずれにせよ、若者ことばや流行語などの造語の大半は、辞書形が「る」となる五段活用の動詞です。外国語学習者の日本語でも若者ことばでも、単純化という方向性では一致しており、それが新しい造語の動詞が「る」で終わる、つまりラ行五段動詞をベースとした類推的拡張という現象に見られるのではないかと考えられます。言い換えれば、どのような話者にとってもラ行五段動詞がプロトタイプ（prototype：原型）になっているわけです。」

つまり、若者たちが、一段動詞を五段動詞のように活用するのは、一種五段動詞をベースとした類推的拡張によるものということである。ただ、若者ことばにおいても、「きてる」（筋肉が極限状態まで疲れきっている）が「きています」になるケースがあるため、南雅彦の説にはもう少し議論すべきところがある。とはいえ、全体的にみれば、類推的拡張説は、若者ことばの特徴的動詞活用法に対して一定の説得力があるものだと考えていいだろう。

6. おわりに

日本語の若者ことばは、日々変化し、流動性や変化の速い言語表現形式である。その中で、「サボる」や「ぐちる」のような一部の語は、すでに一般語として定着しているが、あとの多くは日常生活から消えたり、または死語になったりする運命にある。このため、若者ことばに対する研究は、絶えずそれを追跡しながら進めなければならない。

本稿では、若者ことばを通時的に考察するのではなく、今日でも使うと思われる語に集中し、そこにはどういう特徴的側面がみられるかを検討してみた。そこからは、若者たちが自分のことばに古語を使用したり、接辞の拡大使用をしたり、「体言＋る」という動詞の創出および特別な活用変化をしているということがわかってきた。

若者たちは、普通の日本語表現や規則を維持する一方、それとは異なる新しい用法や表現を次々に開発し、活用している。そういうことがあるだけに、若者ことばの面白さ、元気さ、変化の速さなどが見受けられる。そして、それに対する研究の価値も浮上してくるのである。今後は、言語面だけではなく、社会学、心理学という分野からも多角的に研究視野を広げ、より全般的に若者ことばの使用事情を捉えるようにしたい。

用例出典

北原保雄（監修）、「もっと明鏡」委員会（編集）（2006）『みんなで国語辞典！これも、日本語』東京：大修館書店

佐伯梅友ほか（1988）『例解古語辞典（第二版）』東京：三省堂

渋谷語制作委員会（2008）『渋谷語事典 2008』東京：トランスワールドジャパン

方韻・小出雅生（2011）『时尚日语』合肥：中国科学技术大学出版社

<blog.goo.ne.jp/...mi.../2fa852b0fcb851d2cf45745ec1b12245>（2012年9月8日）

<ja.wikipedia.org/wiki/KY語>（2012年9月9日）

<logsoku.com/thread/hibari.2ch.net/news4vip/1320638151/>（2012年9月10日）

<www.excite.co.jp>（2012年9月10日）

<logsoku.com/thread/hayabusa.2ch.net/.../1340292481/>（2012年9月20日）

参考文献

井上逸兵（2006）「ネット社会の若者ことば」『月刊言語』3月号，東京：大修館書店，60-67

小矢野哲夫（2007）「若者ことばと日本語教育」『日本語教育』134号，日本語教育学会，38-47

三省堂編修所（1983）『広辞林 第六版』東京：三省堂

BLOCKBUSTER+現代略語研究会（2008）『KY語辞典』東京：白夜書房

方韻・小出雅生（2010）「辞書にない日本語—若者言葉を中心に」刘晓芳（主编）『日语教育与日本学研究』上海：华东理工大学出版社，208-211

山口仲美（2007）『若者言葉に耳をすませば』東京：講談社

<www.gengosf.com/dir_x/modules/wordpress/index.php?cat...>（2012年9月24日）